

令和3年度千葉市図書館の評価

千葉市図書館のサービスの向上を図るため、「千葉市図書館ビジョン2040」における目標達成に向けた2つの基本目標と施策展開の柱に沿い、令和3年度の図書館評価を示します。

※評価対象：令和3年度、評価実施：令和4年度

基本目標1

特長のある「知の拠点」の実現

施策展開の柱

- 1 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進
- 2 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築(多様な主体による知の創出・活用)
- 3 未来を担うこどもたちの読書環境の充実

基本目標2

新たな時代に適応する運営の実現

施策展開の柱

- 1 誰もが利用しやすいサービス環境の実現
- 2 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築

評価結果一覧

評価	
A	計画通りに実施でき、一定の成果があった。
B	課題はあるものの、概ね計画通り実施できた。
C	不十分な点や課題が多く、計画通りに実施できなかった。
—	今後取組事項として、研究・検討している。

全体	項目数	内部評価		外部評価	
	9	A	8	A	7
		B	1	B	2
		C		C	
		—		—	

図書館サービスの基本的な取組事項	項目数	内部評価		外部評価	
	1	A		A	

令和3年度 主要・新規事業	項目数	内部評価		外部評価	
	8	A	7	A	6
		B	1	B	2
		C		C	
		—		—	

施策の柱ごとにおける進捗状況について

区分	
達成	事業量に対し、8割以上進捗しているもの
順調	概ね順調に進捗しているもの (事業量に対し、6割以上進捗しているもの)
遅れ	進捗状況に遅れが出ているもの (事業量に対し、6割未満の進捗であるもの)

基本目標1 特長のある「知の拠点」の実現	進捗状況
1 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進	順調
2 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築 (多様な主体による知の創出・活用)	達成
3 未来を担うこどもたちの読書環境の充実	達成

基本目標2 新たな時代に適応する運営の実現	進捗状況
1 誰もが利用しやすいサービス環境の実現	順調
2 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築	遅れ

図書館協議会外部評価部会委員の意見に対する対応

説明	項目数
意見に対する取組みを実施しているもの	6
意見に対する取組みについて検討しているもの	6
未対応のもの	0

図書館サービスの基本的な取組事項

取組説明	内部評価	取組結果	今後の取組み	外部評価	外部評価者のコメント
資料費を有効に活用し、図書館全体としての計画的な収集、適正な管理、迅速な提供及び基本的な資料提供サービスの充実に努めます。	A	・毎週実施している中央館・地区館職員による合同選定会議や、館内選定会で資料の選定を行い、リクエスト資料など利用者の要望を迅速に反映させ、購入や相互貸借等により、速やかに用意するように努めるなど、多岐にわたる利用者の要望に応えた。 ・利用頻度の低くなった資料の除籍及び所管替えを行い、空いた書架に新刊書等を購入し配架した。 ・CD等を含めた寄贈資料を受け入れ、古くなった資料の入れ替えを行った。 ・日々のカウンター業務の中で寄贈してくださる利用者との人間関係を培い、継続的な寄贈につなげた。 ・来館者に新刊本をお知らせするため、新刊新着本のリストを作成し、新刊本コーナーで提供した。 ・企画展示に併せて関連する資料の購入を行い、展示・紹介することによって利用促進を図った。 ・中央館・地区館・分館間で資料の一時移管を行い、有効活用した。 ・資料費を計画的に執行するため、不用額が出ないよう各週単位で管理した。 ・電子書籍サービス開始のため、プロポーザルによる事業者選定のもと体制を構築し、令和3年7月30日からサービスを開始した。選書による資料提供を予算の90点相当から300点に拡充した。 開始時提供資料 約7,600点 年度末時提供資料 8,866点 ・電子書籍サービスについて、学校にギガタブによる利用をチラシで啓発した。 （参考資料） 統計「千葉市の図書館2022」 （P.26）視聴覚資料数の推移 （P.27～33）年間受入・除籍統計 （P.58）電子書籍サービス	・令和3年度はコロナウイルス感染拡大防止対策を取りながらも、取り組んだ結果、前年度と比較し、新規登録者数、来館者数、貸出利用者数等すべての項目で増加傾向となった。ただし、コロナ禍前（令和元年度）には近づいてきたことから、今後、利用制限を緩和させるとともにサービスの充実を図っていく。また、来館者、新規登録者を呼び込むためにも、おはなし会や主催行事の拡充を図る。 ・図書資料については、利用者の興味関心を広げる企画展示を計画的に実施し、施設の利用につなげていく。 ・資料の充実を図るため、引き続き予算の確保に努める。	A	・蔵書の新陳代謝は必要なので、今後も古くなったり利用頻度の低くなった資料を定期的に除籍し、利用者に魅力的な蔵書構築を行ってほしい。ただし一度廃棄した資料は戻らないので地域に根差した資料等の除却は慎重に行って欲しい。購入資料については数年で陳腐化するような資料ばかりでなく、長期間利用し続けられる資料も選書して欲しい。 ・資料費予算額の推移を見ると令和2年度と比較して令和3年度は中央図書館以外は減っている。電子書籍サービス導入のため予算を中央図書館に集めたことが想像出来るが、各分館の蔵書構築に影響が出ないよう分館の資料費もきちんと確保して欲しい。 ・新規登録者数はコロナ禍前の令和元年度の人数にほぼ戻っている。来館者数や市民1人あたり貸出冊数も令和2年度より増加しており評価出来る。コロナ対策を取りながらの利用者へのサービス提供は平時より大変だと思うが、おはなし会等の行事や展示を実施し、今後も利用拡充に努めて欲しい。 ・コロナウイルス禍にもかかわらず、感染拡大防止対策を取りながら、新規登録者数、来館者数、貸出利用者数等すべての項目で増加傾向となったというのはすばらしい。 ・昨年度の評価で「(7)その他の取組」となっていた項目を、評価の最初に置くことで、千葉市図書館の当該年度の状況が把握しやすくなった。「図書館サービスの基本的な取組事項」に、P20の評価指標もまとめて、資料費・ホームページアクセス数など図書館サービスの基本となるデータも掲載してほしい。まずは図書館の基本となるサービスを充実させることが求められる。 ・令和2年度はコロナ下で休館やサービスの縮小があり利用が減少した。令和3年度は感染防止対策を取りながらの取り組みを評価するが、コロナ前の水準にまで戻っていないのが現状である。 ・電子書籍サービスにより、新たな利用者の獲得や学校での活用など新たなサービスに期待する。一方、電子書籍導入費用が資料費に含まれ、資料費は実質減額となっている。電子書籍と紙の資料費を分けて掲載し、電子書籍費用により紙の資料費を圧迫しないようにしてほしい。 ・年間受入図書資料数について、今年度の数字には公民館図書室の資料数も含まれている。図書館合計では34,609冊で減少している。受け入れ冊数が減少しているため、寄贈による受け入れの割合が年々増加し、令和3年度は42%となっていることは憂慮される。 ・資料費が今以上に減り、資料の充実が損なわれることがないよう、資料費の確保に努めていただきたい。 ・千葉市図書館にとっての課題は、基本的なサービスに精通し、経験を積んだ司書の資格を持った正規職員を育てること。千葉市という地域を熟知した文化の継承と発展を担う人材が必要である。司書職制度を確立し、長期的な視点に立った人材育成を望む。まずは管理職に有資格者登用を増員し、職員が司書資格を取りやすい体制を作るなど、継続的に勤務することができる有資格の正職員を増やすこと。他部署への異動後も図書館に戻ってくることで、他部署との人脈ができ、政策の提言なども行うなど図書館のスペシャリストとして、頼れる図書館員を育てる必要がある。 ・会計年度任用職員（前 嘱託職員）の有資格者は98.7%であり、非正規職員に頼る実情がうかがえる。図書館業務に精通した意欲ある人材の育成は急務となっている。

評価指標	達成目標	R3年度実績	R2年度実績	R元年度実績	(コロナ禍前) H30年度実績
新規登録者数 (公民館図書室での登録者を含む)	対前年度比増	18,555人	13,452人	18,977人	21,018人
来館者数 (館内での閲覧利用も含め、図書館に来館した利用者の延べ人数)	対前年度比増	197万人	162.7万人	250.5万人	257.7万人
年間貸出利用率 (1年間に、図書館を利用した市民の割合)	対前年度比増	市民の 9.8%	市民の 9.0%	市民の 11.4%	市民の 12.1%
年間受入図書資料数 (公民館図書室での受入を含む)	現状維持	47,255冊 (うち購入28,074冊 寄贈19,024冊 その他 157冊)	49,429冊 (うち購入32,175冊 寄贈17,102冊 その他 152冊)	56,431冊 (うち購入35,379冊 寄贈20,878冊 その他 174冊)	56,698冊 (うち購入35,722冊 寄贈20,812冊 その他 164冊)
図書資料費 (上段：当初予算額、下段：決算額)	現状維持	89,137千円 (うち電子書籍3,000千円)	88,621千円	92,214千円	95,789千円
		74,458千円 (うち電子書籍3,541千円)	76,336千円	82,012千円	83,763千円
市民一人当たり貸出数 及び総貸出数 (公民館図書室での貸出を含む)	対前年度比増	一人当たり 4.1冊 総貸出数 400万冊	一人当たり 3.51冊 総貸出数 345万冊	一人当たり 4.41冊 総貸出数 432万冊	一人当たり 4.41冊 総貸出数 432万冊
WEB予約件数	対前年度比増	101.4万件	93.2万件	102.0万件	102.0万件
図書館ホームページアクセス件数	対前年度比増	4,421,009件	3,597,182件	2,410,879件	2,410,879件

■主要事業取組項目

■新相事業取組項目

■新規事業取組項目

No.	項目	取組説明	R3年度予算 内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
-----	----	------	----------------	------	------	------------

【基本目標1】特長のある「知の拠点」の実現

1 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進

		R3_取組項目	R3_取組結果
取組項目	1	【再掲 主要事業No.3】 (1)「知」のアーカイブ化計画の立案・実行 ア 令和3年1月1日に市制100周年を迎えたが、この大きな節目にあたり、まちづくりに貢献した市民等の本市発展の記憶を、民間事業者のインタビュー手法などのノウハウを活用して収集・保存します。（予算：3,000 [千円]）	・前年度に引き続き、オーラルヒストリーを作成するために取材とレポートの作成等の業務を民間事業者に委託して実施した。インタビューについては、千葉市地域無形民俗文化財(4件)の関係者、親子三代夏祭り実行委員会の関係者、ピーススタッフなど、10件の取材を実施し、小冊子及び電子データとして保存した。電子データについては、千葉市地域情報デジタルアーカイブに搭載し、ホームページ上で閲覧可能とした。
	2	イ アーカイブ化する資料の収集方針や年次目標件数・実施体制などを含めた、未来へつなぐ「知」のアーカイブ化計画の作成を行います。	・アーカイブ化計画を作成している他自治体や関係機関の情報収集を行い、同計画に盛り込むべき項目(骨子)について検討を始めた。
	3	(2)本市の歴史的文書の整理・保存など ア 本市の歴史的な資料の整理・保存について引き続き検討します。	・市制100周年を記念して発行された刊行物等をはじめとした地域・行政資料や、地域情報の千葉市関連資料を収集及び保存した。 ・地域資料の企画展示を実施した。「HUB STATION CHIBA」、「千葉氏三代～千葉市の礎を築いた一族～」など ・市制100周年を記念し、千葉市に関する企画展示を行うとともに、地域資料の収集と貸し出しを行った。「祝・市制施行100周年」、「千葉市制100周年記念 千葉市のあゆみ展」など ・引き続き、日々のレファレンス事例をファイル化し管理し、所蔵資料の整理を行った。 ・市制100周年を記念して、千葉市の歴史に関する資料の展示を行った。 ・緑区関連資料コーナーを、引き続き設置し、緑区で拠点とする団体などが発行するパンフレット等を収集・保存した。 ・団体貸出メニューに「100周年記念セット」を準備し、周知した。 セット内容：千葉市市制100周年記念誌や漫画など 貸出回数：4回 （令和4年度は、「千葉市を学ぶセット」と改名し、引き続き活用していく。）

4	【再掲 主要事業No.1】 (3)「知」の提供プラットフォーム(基盤)の構築 (「知」の見える化) ア 地域情報をインターネット上で閲覧できるシステムを構築し、令和3年3月からデジタル化された資料の公開を開始しています。 (予算:3,025 [千円]) 【R2 外部評価より】 現在のホームページからアーカイブシステムが探しにくいなど、課題が残るので、ホームページの改善を望む。	・令和4年3月末より、千葉市オーラルヒストリー(15件)について、デジタルアーカイブ上で公開した。 ・デジタルアーカイブシステムADEACを利用し、令和4年2月より、千葉市史(第2巻)を公開した。 ・図書館ホームページについて、令和5年3月に図書館システムの更新を予定しており、更新に合わせて、利用しやすいホームページになるよう、仕様等の検討を行っている。
5	イ アーカイブ化は千葉市史からモデル的に実施し、その結果を検証した上で、博物館等関係機関と協議を進め、資料の選定方針や著作権などの権利処理といった制度の骨格を定め、継続的に取り組んでいきます。	・アーカイブ化はまず、千葉市史からモデル的に実施することとし、令和3年度は「千葉市史第2巻」をアーカイブ化し、デジタルアーカイブシステムADEACを利用し、インターネット上で公開をした。 ・アーカイブ化計画を作成している他自治体や関係機関の情報収集を行い、同計画に盛り込むべき項目(骨子)について検討を始めた。
6	(4)デジタル・アーキビスト 等の専門人材の養成 ア 中長期的な視点に立脚した人材育成方針を定め、デジタルの知識や技能を有するデジタル・アーキビスト等の専門人材の養成について、計画的に職員の育成を進めるため、必要な資格取得の支援などを行うことを引き続き協議します。	・デジタルの知識や技能を有するデジタル・アーキビスト等の専門人材の養成について、必要な資格取得の方法(講習会受講及び認定試験)について確認した。 ・デジタルアーキビストの資格取得支援に向け、関係部局と調整を図った。 (令和4年度から資格取得支援に向け、周知を図っていく。)
7	【再掲 主要事業No.1】 (5)「知」の発掘などに関する市民協働体制の構築 ア 市民と協働した「知」の収集体制を引き続き検討します。 (ア)ボランティア組織の編成、活用などの検討 (予算:160 [千円])	・市民ボランティアとの協働による「知」の収集体制の構築に向け、令和3年度に業務委託により実施したオーラルヒストリー作成事業(記憶の保存事業)において、民間事業者によるインタビュー取材に同行し、具体的なインタビューの進め方等についてノウハウの蓄積を行った。

	8 (6)学習成果などの「市民の知」の発表などに対する支援 ア 地域の歴史などについて、自主的・主体的に研究などを行っている団体への支援内容に関する調査について引き続き検討します。	・地域の歴史等に関して、自主的・主体的に研究などを行っている団体を把握するため、市内の生涯学習施設等を拠点に活動している団体の、各施設ごとの登録状況について情報収集を開始した。
内部評価	進捗状況 順調	
	主な成果等 (1) ・まちづくりに貢献した市民等の本市発展の記憶を、民間事業者を活用して千葉市地域無形民俗文化財(4件)の関係者等、10件の取材インタビューを行い、「千葉市オーラルヒストリー」として収集・保存を行った。 ・アーカイブ化する資料の収集方針や年次目標件数・実施体制などを含めた、アーカイブ化計画の策定に向けて、令和3年度は、計画に盛り込むべき項目(骨子)について検討を始めた。引き続き、策定に向けて具体的な準備を進めていく。 (2)千葉市制100周年を記念して発行された刊行物等をはじめとした地域・行政資料や、地域情報の千葉市関連資料を収集及び保存した。また、市制100周年を記念し、各図書館で企画展示を実施するとともに、団体貸出メニューに「100周年記念セット」を準備し、周知した。 (3) ・「千葉市オーラルヒストリー」(インタビュー記事)や、「千葉市史(第2巻)」をデジタル化し、図書館ホームページに掲載した。 ・図書館ホームページについて、利用しやすいホームページになるよう、図書館システムの更新(令和5年3月予定)に併せて、仕様等の検討をおこなっていく。	
外部評価者のコメント	(1)アーカイブ化計画作成を評価する。地域資料に関しても収集方針を明確にしデジタル化する資料以外も継続して収集・保存してもらいたい。アーカイブ化はこれから必要な事業。前提となる地域資料や地域情報の収集は図書館にとって重要な取組である。地域情報の収集や市民インタビューは民間業者に依頼するのではなく、図書館職員が行うことが望ましい。そのためには職員の人材確保と継続的に収集できる体制作りを行い、経験とスキルアップを積み重ねることが必要。千葉市地域情報として何を収集し、どのような資料を収集するのか千葉市図書館の地域情報の収集方針を作成すべきだと考える。 (2) ・市の歴史的文書の整理・保存は市立図書館として非常に大切な業務であるので今後も引き続き積極的に取り組んで欲しい。 ・千葉市は発足時本当に小さい(面積)の市であった。それが合併合併で大きくなり、また埋め立てで新しい町も出来た。千葉市政100年というのであれば市内全体できちんと図書館として資料を残すべきである。 (4)デジタル・アーキビストの養成は独自で行うのはなかなか難しいと思うので他機関で行っている講習会などもうまく活用して取り組んで欲しい。 (5)市民ボランティアとの協働による知の収集体制の構築とインタビューのノウハウの蓄積の関係がよくわからない。ボランティアが「知」の収集を行い、図書館員はインタビューを行いそれをまとめる作業を行うということか。ボランティア組織の編成活用とあるが、ボランティアは自主的に行うものではないのか。	

2 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築(多様な主体による知の創出・活用)

		R3_取組項目	R3_取組結果
取組項目	9	(1) SNSを活用した知識の交流を促す仕組みの構築 ア SNSを活用した知的な交流の場の設定について検討します。	・Twitterを活用し、企画展示や市民講座開催の周知を行った。 ・Facebookページに加え、新たに12月にはTwitterページを開設し、利用案内やイベント情報を、中央・各地区館分館から発信することにより、より幅広い層への情報発信を図った。
	10	(2) 学びや調査研究を支援する知的な交流の場の提供 ア 公衆無線LAN(Wi-Fi)環境が整った環境を活用し、市民が集まって学べるスペースや市民間で議論ができるミーティングルームなどの整備について図書資料整理を進め、施設の改修等に合わせ取組みを推進します。	・令和2年度に全ての図書館(15施設)へWi-Fi環境を整備した。Wi-Fi環境を活用したミーティングルーム等の整備については施設の改修等にあっては取り組んでいく。
	11	(3) 市民と知識、知識と知識をつなぐ活動の推進 ア 市民の課題解決を支援するため、レファレンスサービスの充実を図ります。	・窓口のほか電話や手紙によるレファレンスにも迅速に対応し、市民の課題解決の効率化を図った。 ・参考資料を購入し、参考資料コーナーや書架の充実に努めた。 ・各関係機関の実施する研修に職員が参加した。 ・レファレンスサービスの案内について館内に掲示した。 ・レファレンス資料(参考資料)書架の一角に調べ方の道案内(レファレンス)コーナーを設置し、調査に役立つ基礎資料の一部や調べ方を紹介した。 ・図書館ホームページからのメールレファレンス(39件)に対して、資料提供等によるサービスを実施した。 ・レファレンスのPRのため、図書館ホームページの「調べ物相談(レファレンス・サービス)」のページに地域に関するレファレンス事例を掲載した。(累計32件 ※令和3年度に2件追加) 参考資料 統計「千葉市の図書館2022」 (P.51)レファレンス件数の推移
		【R2 外部評価より】 レファレンスは千葉市を知る上で重要な事例がホームページにまとめられているが、これらの「地域に関するレファレンス事例」をパンフレットやチラシにして配布することで、レファレンスの役割や便利さを利用者に伝え、レファレンス質問をよりしやすくすることができるかもしれない。	・“調べ方の道案内(パスファインダー)”として、特定のテーマ(地域に関するものも含む)の調べものをされる際の“道しるべ”として、調査に使える基礎資料の一部や調べ方などをホームページで紹介するとともに、館内においてはリーフレットとして配布している。 ・地域に関するレファレンス事例について、館内での事例を蓄積し、レファレンスサービスに生かした。

12	イ 出会いのある図書館利用の促進のため、講座や企画展示などによる情報発信をします。 【R2 外部評価より】 コロナ禍においても一般向き図書館講座は一定数の開催がされ、市内博物館等の講師派遣も継続している。しかし、これらの講座内容の紹介や報告が十分とは言えない。基本目標1の「知の拠点」の形成の上でも、これらの講座を記録に残し、市民共有の財産として活用していく努力が必要と思われる。	・図書館市民講座・郷土史講座・子ども読書講座・紙芝居講座など様々な講座を開催した。また、講座に関連するテーマの企画展示を行い、関連資料の貸出を行った。子ども読書講座…「子どもたちへ本を届ける！編集者の仕事について聞いてみよう！」 市民講座…「企画展『千葉市誕生』を担当して一弘田龍太郎と父正郎の事績を中心として」、「江戸の旅 卯兵衛のお伊勢参り」、千葉市制100周年記念「伊藤左千夫と千葉県」、「防災と考古学」、「子どもの心とからだ、大丈夫？～withコロナの時代の子どもの健康を観察してみよう～」募集30人・参加9人 ・ビジネス展示コーナーにおいて、経営・就職関連資料等、ビジネスで活用できるような資料の展示を行った。テーマ：「就職・転職・資格～新しい自分に会いに～」、「職場の環境管理」など ・通年の文学賞受賞作品の展示、時季に合わせたテーマの展示など様々な企画展示を行った。 ・企画展示コーナーのほか、タイムリーな話題に対応する展示コーナーや、年間を通しての展示コーナーを設置し、様々な情報発信を行った。「オリンピック・パラリンピックコーナー」※大会終了まで、「子育て応援コーナー」※通年など ・新刊資料のコーナーを設け、展示コーナーに季節やテーマにそった資料の展示を行った。 ・企画展示に合わせた資料紹介、展示資料のブックリスト作成を行った。 ・夏休み子ども教室「おじいちゃんおばあちゃんが子どもの頃の稲毛の街」を開催した。 ・夏休みお楽しみ教室「葉っぱの形（葉脈標本しおり）」を開催した。 ・メダカの飼育に関する資料と合わせ、本物のメダカも飼育・展示することで、図書館資料や生物への関心を促した。 ・地域の子育て世代にコミュニケーションを図る場の提供・支援を図るため、定例おはなし会等を実施した。 参考資料 統計「千葉市の図書館2022」 (P.62～68)企画展示 (P.69～73)主催行事(定例おはなし会を除く) ・生涯学習センター主催の「まなびフェスタ」内で「ビジネス支援講座」を毎年開催し、千葉市の元気企業を中心に、地元で活躍している企業の独創性の高い技術やサービスなどについて、市民や起業を考えている方に幅広く紹介している。実績については、統計「千葉市の図書館」等で報告している。 ・講座の周知は市図書館ホームページや市政だよりで行っている。生涯学習センターと共催の場合、センターが発行しているイベント情報等にも掲載している。 ・生涯学習センターと連携して講演会を開催したが、開催後に、講演の内容についてホームページで紹介・報告した。「千葉市中央図書館・生涯学習センター開館20周年記念 森絵都さん×古内一絵さん 対談講演会」
----	---	---

13	(4)生涯学習センター・公民館等との連携・協力の強化 ア 市内の生涯学習施設、教育機関、公的機関、類縁機関等と連携し、資料の収集や提供を行うとともに、各種事業の実施に際して相互に事業協力を行います。	・生涯学習センターと協力して事業を実施した。「わらべうたと絵本の会」、「子ども読書講座」、「外国語おはなし会」、「読書まつり」 ・読書まつりにおいて、生涯学習センター主催のイベントに協力した。「本のポップづくり」など ・生涯学習センターと連携して講演会を開催した。「千葉市中央図書館・生涯学習センター開館20周年記念 森絵都さん×古内一絵さん 対談講演会」 ・小・中学校の図書館見学やまちたんけん、職場体験を受け入れた。 ※小学校の図書館見学は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、回数や進行で分散を図った。 ・中学校の調べ学習を実施した。 ・「読書まつり」で小・中学校の展示を行った。 ・市民講座や夏休み子ども講座の開催にあたり、郷土博物館や加曽利貝塚博物館の職員を講師として迎えた。 ・千葉市科学館と連携して、イベントを開催した。小学生を対象とした「わくわく体験教室」など ・夏の児童向けイベントの一つとして「勾玉づくり」の開催にあたり、埋蔵文化財調査センターに講師を派遣してもらい、制作指導していただいた。 ・市民講座の開催にあたり、市内大学(東都大学)の教授を講師として迎えた。 ・最寄りの公民館が主催する講座のポスターの掲出やチラシの配布を行うとともに活動団体や講座に関連した資料を選定してリスト化して公民館で配布した。 ・「子ども読書まつり」において、高校生によるおはなし会や、「NPO法人 ちば算数・数学を楽しむ会」に講師の派遣を依頼し、「つくってあそぼう算数工作」を実施した。 ※前年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施がなかったが、再開した。 ・夏休みにNPO法人と協力して、小学生対象に「おもしろ算数と絵本の会」を実施した。 ・「子ども読書まつり」、「親子おはなし会(子ども読書の日記念・夏・冬)」を鎌取コミュニティセンターとの共催で実施した。 ・土気公民館の文学講座「森鷗外と千葉県」で、土気公民館の特集コーナーに関連図書を展示した。 ・大学と連携・協力し、学生ボランティアによる「英語で楽しむ親子おはなし会」を実施した。 ・教員の社会体験研修を受け入れた。7月27日(火)～29日(木):3人 (なお、例年は2回(6人程度)受け入れているが、8月受け入れ予定の3人は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止。)
----	---	--

14	イ 公民館図書室のサービス向上のため、選書、レファレンス、研修等の支援を行います。	・公民館図書室の選書の一助となるよう、使用済みの新刊全点案内を毎月送付した。 ・公民館図書室からの要望(図書のリクエスト)や問い合わせには迅速に対応した。 ・公民館図書室の資料充実のため、寄贈資料を未所蔵図書室に送るなどの支援を行った。 ・「図書館・生涯学習振興課・公民館管理室・公民館図書室の連絡体制等について」に基づき相互に協力した。 ・公民館図書室の訪問調査(全21館)に、図書館職員を派遣して、図書室運営の支援を行った。 ・選書や除籍等、資料収集に係る知識の向上を図るため、公民館図書室運営研修会に講師を派遣した。 ・公民館図書室職員に、業務の基礎学習による知識習得を図るため、初任者向け研修会への参加を促したところ参加があった。4月15日(木)47人。(令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により研修会が中止となったため、研修会の資料を配布)。 ・公民館図書室職員の図書修理技術及び接遇能力向上を図るため、全体研修会への参加を促したところ、参加があった。第1回5月20日(木)18人。第2回11月18日(木)16人。(令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により研修会が中止)。
15	(5)その他の取組み ア 図書館の利用を促進するため、地域での広報活動や、各種メディアを活用した広報活動を積極的に実施します。 【R2 外部評価より】 ホームページで、お知らせとして載せたものが古くなると重要な情報でもトップページから見えなくなってしまう、改善が望まれる(例:図書館以外の返却ポスト)。	・「市政だより」へおはなし会等イベント情報を掲載した。 ・生涯学習センター広報紙「まなびの森」へイベント情報を掲載した。 ・「図書館だより(年2回発行)」へ近隣小学校との連携やレファレンス事例に関する記事を掲載し、また、より多くの方に手に取ってもらえるよう、レイアウトを見直した。 ・ホームページ、Facebookページに加え、新たにTwitterを開設し、インターネットを通じた広報を実施した。 ・図書館ホームページについて、R5年3月に図書館システムの更新を予定しており、更新に合わせて、利用しやすいホームページになるよう、仕様等の検討を行っている。

内部評価	進捗状況 達成 主な成果等 (1)Facebookページに加え、新たに令和3年12月にはTwitterページを開設し、利用案内やイベント情報を、中央・各地区館分館から発信することにより、より幅広い層への情報発信を図った。 (2)Wi-Fi環境を活用したミーティングルーム等の整備については施設の改修等に併せて取り組んでいく。 (3) ・多様化するレファレンスに対応するため、各関係機関の実施する研修に参加し、担当職員のスキルアップを図った。レファレンス資料(参考資料)の充実や、窓口のほか電話やメールでのレファレンスにも対応し、レファレンスサービスの充実に努めた。レファレンスPRとして、館内においては調べ方の道案内(レファレンス)コーナーの設置、案内提示やリーフレットを配布した。また、ホームページにレファレンス事例などに関する記事を掲載することにより周知を図った。 ・様々な講座や企画展示を実施し、読書活動の普及啓発に努めた。講座の実施にあたっては、講座に関連するテーマの企画展示を実施し、関連資料の貸出をするなどの情報提供を行い、図書館の利用促進につなげる工夫を行った。 (4)講座や企画展示、おはなし会など関係機関と連携した多くの取組みを実施した。 (5)市政だよりなどの広報紙に掲載するとともに、インターネットを通じた広報を実施し、図書館の利用を促進した。
	(1)(5)Twitterは広報しやすく拡散もしやすいため広報ツールとして適切だと思われる。ただ、インターネットやSNSを利用していない層も一定数存在するため、従来通りの広報誌やポスターなどでの広報も継続し、幅広い層に広報出来るよう努めてほしい。 (1)Twitterの活用は地区館によって偏りがある。図書館からの情報発信だけでなく、情報を収集し交流する場、ZOOMの活用など期待する。SNSを利用してもらうには、アプリの導入方法、使い方など実際に行う機会を設定することも必要。 (2)施設の改修等に合わせてミーティングルーム等を整備するとあるが、施設面積を縮小する方針の中で実現可能なのか。新しい若葉図書館では、公民館の複合施設の利用ではなく図書館内に整備することを希望する。 (3) ・多様化するレファレンスに対応すべく職員が研修等でスキルアップに努めたことは評価出来る。当館のみでレファレンスに対応するには限界があるので、NDL提供のレファレンス協同データベース等のツールを活用して効率的にレファレンスに対応することに努めてほしい。 ・レファレンスサービスは最も基本的な図書館員の仕事です。図書館に聞けばなんでもわかると市民に周知し、日々研鑽を積んでおこなってほしい。レファレンス事例の紹介やパスファインダーを使って実際に調べるなどレファレンスのイベントの工夫も必要。職員にはレファレンスサービスの経験や研鑽が必要で、司書として長期勤務や研修が欠かせない。 (4)他施設との連携、共同での講座は市民への「知」の広がりを生むと共に図書館職員の力ともなる。

3 未来を担うこどもたちの読書環境の充実

		R3_取組項目	R3_取組結果
取組項目	16	(1)計画的なこどもの読書活動の推進 ア こどもたちがあらゆる機会にあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、令和2年度に策定した「千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)」に基づき取組みを推進します。	・「千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)」に基づいて事業を実施した。 ・関係部局に対し、計画事業の進捗状況調査を実施し、進行管理を行った。
	17	(2)こどもたちが利用しやすい読書環境の整備・充実 ア こどもの本を知り、本を手渡す術を知るために、必要な研修を実施するとともに、講師として講座事業が実施できるよう、人材の育成を図ります。	・職員及び会計年度任用職員のスキルアップのため外部研修に参加した。(「千葉県立図書館主催児童サービス基礎研修会」、「千葉県公共図書館協会主催スキルアップ研修会」、「レファレンス研修会(レファレンスサービス基礎研修)」) ・各種研修に職員を積極的に参加させ、研修に参加した職員が報告をすることで、職員間で知識を共有した。 ・こども室でより快適に読書等ができるよう、レイアウトを変更した。
	18	(3)こどもの本の充実 ア すべてのこども(乳幼児から青少年)の読書活動を支える資料の充実を図り、読書環境の整備に努めます。	・様々な年齢のこども向け新規図書の購入、古くなった図書の除籍、買い替えを行い、読書環境の整備に努めた。 ・情報収集を積極的に行い、あらゆるジャンルの書籍の収集に努めた。 ・児童担当をメインとした館内選書会議を行い、こどもの本の収集の充実を図った。 ・こども向け新規図書の展示や、ブックリスト「よんでみよう」を各年齢に合わせ配架し、おすすめの本を紹介するなど本の紹介に努めた。 ・新刊の情報収集に努め、現物を見て購入検討する等、よりよい資料の収集を行った。 参考資料 統計「千葉市の図書館2022」 (P.76)刊行物(おすすめの本のリスト)
	19	(4)こどもや保護者を対象とした取組みの充実 ア 本の楽しさを知り、話し手と聞き手のコミュニケーションを図れるおはなし会やわらべうたの会を、定期的実施するほか、家族や親子で楽しめる会も開催し、家庭での読書活動につなげます。	・年齢別・対象別のおはなし会や、わらべうたの会に加え、時季に応じたおはなし会も開催した。 ・こどもが学校休業中に本や図書館に親しむためのイベントを実施した。「わくわく体験教室」、「夏休みこども教室」、「小学生かんたん工作」、「子ども一日図書館員」など ・中央図書館の「定例おはなし会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、おはなしの部屋が使用できず、開催することができなかった。親子おはなし会は、生涯学習センターのアトリウムガーデンを使用して出来る限り実施した。「わらべうたと絵本の会」は、生涯学習センターのスタジオを使用して月1回実施した。 ・定例のおはなし会は平日だが、イベント開催としてのおはなし会は土曜日の開催とし、平日に参加出来ない方の参加をしやすいとした。 ・ボランティアの協力を得て紙芝居の実演を実施した。 参考資料 統計「千葉市の図書館2022」 (P.69)おはなし会(定例) (P.69～73)主催行事(定例おはなし会を除く)

20	イ こどもたちが、図書館を十分活用し、必要な情報を収集できるよう、図書館の見学会や資料の検索講座などを行うほか、保護者などに対し、こどもの読書の意義及び目的を啓発します。	・図書館見学・まちたんけん・調べ学習や、「わくわく体験教室」・「子ども一日図書館員」などで来館したこども達に、OPACの操作方法等を教え、自分で検索できる楽しさを学習してもらった。また、保護者からのこどもの読書に関する相談にも対応した。 ・こどもの読書の意義及び目的を啓発、図書館利用を促進するため、親子参加事業を実施した。「読書まつり」、「わらべうたと絵本の会」、「子ども読書の日記念親子おはなし会」、「夏・冬の親子おはなし会」、「青少年の日親子おはなし会」など
21	ウ こどもが読書に親しむきっかけを作るとともに、家庭での読書の習慣付けを図るため、「読書手帳」を未就学児（年長児）、小学校1年生から6年生に配布します。	・多くの児童生徒に利用してもらえるよう、「どくしよてちょう」を年長児、小学生全学年に配布した。 R3年4月に年長児（約7,600人）に配布。 R3年4月に小学1～3年生用（約29,600人）、4～6年生用（約30,500人）を配布。
22	【再掲 新規事業No.1】 エ 新就学児を対象に図書館利用登録の促進を図るため利用申込書を配布します。 【新規】	・小学校の新入学児童向けのファミリーブックタイム事例集を市内全小学校に配布する際に、利用申込書も配布（9,410部）した。
23	(5)移動図書館車の活用 ア 移動図書館車が学校に訪問することで、こどもたちが学校にいながら本市図書館の図書資料に触れる機会の提供について検討します。	・移動図書館車で小学校1校及び児童相談所を訪問し、図書資料に触れる機会を提供した。
	【R2 外部評価より】 小学校1校と児童相談所を移動図書館が訪問したことは評価できる。ステーションの利用状況を検討し、図書館が近くない地域・学校など、移動図書館車の有効活用の検討を望む。	・現在の移動図書館車の稼働状況（市内26カ所のステーションへ、月2回の指定日に巡回している）をふまえ、イベント等での活用を検討する。

24	(6)学校・学校図書館との連携・協力の推進 ア こどもの読書活動を継続的に推進するために、学校と連携し児童・生徒の図書館見学や職場体験を積極的に受け入れるとともに、学校への団体貸出や図書館から職員等が学校に出向いておはなし会等を行います。	・近隣小学校や中学校と連携し、図書館見学、まちたんけん、職場体験、調べ学習の受け入れを実施した。 ※図書館見学は、ビデオ見学で実施した。 ※図書館見学は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、回数や進行で分散を図った。 ※職場体験を、大宮中：11月9日(火)・10日(水)3人、都賀中：12月1日(水)～3日(金)3人を受け入れた。なお、加曽利中、轟中、みつわ台中からも受け入れ予定であったが、日程決定後に、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止した。 ・あすみが丘小学校と連携した。①団体貸出しの受取場所に当館を追加、②児童展示「宮沢賢治の世界」について、同小6年の有志が作成したポップ(本のあらすじやイラストを書いたカード)や関連本を展示、③同小6年の国語の授業において、ブックトークを実施。 ・学校への団体貸出を実施した。 ・学校等の要望を受け、学校用団体貸出資料の充実を図った。※セット内容の見直し等 参考資料 統計「千葉市の図書館2022」 (P.55)団体貸出利用統計 (P.74～75)学校等関連施設との連携活動									
25	【再掲 新規事業No.2】 イ 図書館資料を市内小・中・特別支援学校で活用するための支援として、「学校レファレンス用カード」を配布します。 【新規】	・市内小中特別支援学校に「学校レファレンスカード」を配布し、運用を開始した。R3年度末にアンケート実施。 ○利用状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>小学校</th><th>中・特別支援学校</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用した</td><td>29</td><td>10</td></tr> <tr> <td>利用していない</td><td>63</td><td>34</td></tr> </tbody> </table> ○回答内容 良い取り組みであるが、校内で十分周知されておらず、利用につながっていない。また、利用方法等のさらなる改善を求める声も多い。 この状況をふまえて、R4年度は、改善案を検討し利用促進を図っていく必要がある。		小学校	中・特別支援学校	利用した	29	10	利用していない	63	34
	小学校	中・特別支援学校									
利用した	29	10									
利用していない	63	34									
26	【再掲 新規事業No.3】 ウ 学校図書館運営委員会において、選書や運営に関する情報交換を行う等、学校図書館と図書館や公民館図書室が連携してこどもの読書活動の推進を図ります。 【新規】	・市内小・中・特別支援学校に対し、団体貸出を行い、レファレンスや読書活動についての相談、また、授業で導入やまとめで有効な資料を紹介した。 ・図書館主任研修会にて図書館主任のみなさんに対面で説明した。また、学校図書館主任協議会においてオンラインで新たな取組や団体貸出について説明した。 ・団体貸出で来館した教員や学校図書館指導員に、聞き取りやアンケートを取り、現在の団体貸出セットについて良い点や改善してほしい点について情報を交換している。 ・図書館で不要になった本をリサイクル図書として、市内小・中・特別支援学校にお持ちいただける流れを作った。									

27	(7)「千葉市民の知」の学校教育での活用 ア 収集した「千葉市民の知」を授業で活用する際の支援について引き続き検討します。	・令和4年3月末より、千葉市オーラルヒストリー(15件)について、千葉市地域情報デジタルアーカイブ上で公開し、千葉市図書館ホームページからのリンクで閲覧可能となった。タブレットを利用した学校授業における活用が期待できる。
28	(8)その他の取組み ア 地域おはなしボランティアの育成を図り、協働して、学校、地域、施設などでの活動を進めます。	・地域おはなしボランティアスキルアップ講座を実施し、読み聞かせやわらべうた、アニメーションに関する知識・技術の向上を図った。(2回) ・地域からおはなし会の要請があった際、地域おはなしボランティアに協力依頼をし、一緒に活動を行った。 ・子ども読書まつりの際に、地域おはなしボランティアによるおはなし会を実施した。 ・近隣施設に地域おはなしボランティアを派遣するための調整を行った。 ・子ども読書まつりの際に、地域おはなしボランティアに、わらべうたやイベント補助を依頼し、協力して実施した。 ※前年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で規模を縮小したため、実施なし。 ※おはなしボランティアの活動派遣は地区館が行っている。 参考資料 統計「千葉市の図書館2022」 (P.75)地域おはなしボランティア活動
29	イ 読書習慣を形成する上で、大きな役割を担う家庭での読書活動をすすめるための「ファミリーブックタイム」運動を推進します。また、地域で読書活動を進める地域・家庭文庫などを支援します。	・各年齢に合わせた「よんでみよう」を積極的に配布した。 ・ファミリーブックタイムのポスターを掲示し、家庭での読書活動の推進を図った。 ・ファミリーブックタイム事例集を館内配布し、そのブックリストに掲示している資料の展示を行った。 ・地域・家庭文庫からのリクエストを参考に団体貸出用図書を購入した。 ・中央図書館の児童フロアに地域文庫等の紹介コーナーを作った。 ・4か月児向けのファミリーブックタイム事例集を各区保健福祉センターに配布(8,200部)し、小学校の新入学児童向けの事例集を市内全小学校に配布(9,410部)した。 ・4か月児検診の際に、図書館のお薦めする本の紹介として、おはなし会の一覧やお薦めの絵本を掲載している「我が家のファミリーブックタイム」を配布し、図書館利用へつなげている。 ・幼保支援課が作成したイクメンハンドブック(育男手帳)に、赤ちゃんへの読み聞かせの準備として特に読んでほしい本を掲載した。

30	ウ 子育て支援施設、生涯学習施設その他で行われるこどもの読書活動推進にかかわる事業について、連携・協力します。	・子育て支援施設に対し、出張おはなし会等のPRに務めた。 ・依頼のあった公民館で行っている育児サークルへ、地域おはなしボランティアを派遣した。 ・鎌取コミュニティセンターと連携し、親子おはなし会を実施した。
31	エ 図書館業務の体験学習の機会を設けます。また、司書過程の学生の受け入れ、インターンシップ実習、ボランティア体験の受け入れを行います。	・中学校の職場体験の受け入れを実施した。 ・夏休み期間中に、小学3年生を対象とした「子ども一日図書館員」を実施した。 ・要望のあった大学1校から、インターンシップ実習の受入を行った。 ・ボランティア体験(高校生)の受け入れをした。 ・千葉経済短期大学からの依頼により、図書館実習1名、インターンシップ1名を受け入れた。 ・司書課程実習の受け入れを行った。千葉経済大学短期大学部:8月25日(水)～9月7日(火)1人
32	オ 図書館が地域の交流の場となるように、子ども読書まつりにおける各種イベントなど、市民の企画・参加による事業を実施します。	・利用者に好きな本を書いて貼ってもらう参加型の展示「本だいすき」を行った。 ・読書まつりにおいて、「本だいすき」、工作、「親子で楽しむおはなし会」、期間の過ぎた雑誌の配布、ボランティア団体による紙芝居の実演を行うなど、市民の企画・参加によるイベントを実施した。 ・千葉市文庫連絡協議会、としょかんふれんず千葉市による展示を行った。 ・稲毛図書館は、空調設備改修工事による休館のため実施できなかった。

	進捗状況 達成 主な成果等 (1)こどもの読書活動を推進するため、同計画に基づき、事業を推進した。 (2)各種研修に参加し、児童サービス担当者のスキルアップを図った。 (3)こどもの発達段階に応じた読書活動が行われるよう、発達段階ごとの望ましい選書を行った。 (4)(6)(8) ・おはなし会、学校等関連施設との連携事業(図書館見学など)、おはなしボランティアの活動派遣などは、感染症対策を行い、可能な限り実施した。 ・「どくしょてちょう」や「ファミリーブックタイム事例集」等の配布に加え、第4次計画の新規事業として令和3年度より新たに、小学校の新入学児童に「利用申込書」の配布及び市内小中特別支援学校に「学校レファレンスカード」の配布を開始し、図書館の利用促進、家庭での読書活動促進を図った。 ・「学校レファレンスカード」について、令和3年度の利用状況やアンケート調査の結果をふまえ、改善案を検討し利用促進を図っていく。 (7)収集した「千葉市民の知」を学校授業で活用する際の支援について検討していく。
外部評価者のコメント	・学校等関連施設と連携しての事業実施を今後も続けて欲しい。こども向けの資料の選書については学校の意見も取り入れて授業で利用する資料を適切に購入出来ると良い。 (1)具体的な取組を記載してほしい。「千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)」の取組を進め、コロナ禍により途切れてしまった学校・地域・家庭との連携を再構築してほしい。 (2)児童担当者がよく展示の工夫をしているが、本をこどもが手に取りたくなるような展示方法や配架の工夫を期待する。 (4)職場体験やOPAC操作方法など人気があるので回数を増やせないか。読書手帳の利用してもらうよう学校との連携を。 (6)団体貸し出しは、小学校の利用が多く単元によって同時期に必要な資料が重なることが多いと聞く。学校図書館間の連絡システムなどを利用し、有効に活用できるような仕組みを検討していただきたい。団体貸し出しの受け取りを地区館で行うなど配送に関しての利便性の向上と、時代とともに新たな資料や児童生徒の興味を引けるようなセット内容の見直しも重要。 (7)千葉市オーラルヒストリーは、どの学年での活用が期待されるのか。ルビがなく小学生には難しく、書誌情報などの参考文献の記載がないので、学習資料にするには対象年齢を考慮し再編集が必要ではないか。

【基本目標2】 新たな時代に適応する運営の実現

1 誰もが利用しやすいサービス環境の実現

		R3_取組項目	R3_取組結果
取組項目	33	(1)利便性の高い場所へのサービスポイントの設置 ア 利用者の利便性を高めるため、駅前の商業施設などに予約本の受取返却ができるサービスポイントの設置について、令和2年度にサービスポイントとして改修した土気図書室の利用動向等を注視しつつ、施設整備との整合を図りながら引き続き検討します。	・図書の貸出・返却を行うサービスポイントの設置場所・運営方法等、課題を整理し、関係機関と協議していく。
		【R2 外部評価より】 土気図書室の改修により、明るく本が見やすくなったが、子どものスペースを作るだけでなく、児童担当の職員の配置や本の紹介、おはなし会などサービス全体を見直していただきたい。	・新刊図書を配架する書架を設置し、新しい図書を利用者に分かりやすくした。 ・「よんでみよう」とともに、「よんでみよう」に掲載されている図書も併せて展示し、おすすめする本(児童書)を分かりやすく紹介した。
	34	イ 図書館施設が近くにない地域などに対し、移動図書館車による図書館サービスを提供します。	・市内26カ所のステーションへ、月2回の指定日に巡回し、貸出等のサービスを提供した。 参考資料 統計「千葉市の図書館2022」(P.54)移動図書館利用統計
	35	(2)開館日・開館時間の最適化 ア 利用者の利便性を高めるため、地域の実情に即した開館日・開館時間の最適化について、コロナ禍の新たな生活様式への対応も取り入れながら引き続き検討します。	・利用者の利便性を高めるため、開館日・開館時間の最適化について、コロナ禍の新たな生活様式への対応も取り入れながら検討する。
	36	(3)インクルーシブ(包括的)な利用環境の整備 ア 「図書館利用に何らかの障害がある人すべて」に対して、資料を利用する上での障害を、対応機器の整備や人的配慮などにより取り除き、情報提供に努めます。	・大活字本や点字付き絵本、視聴覚図書(朗読CD)、DAISY図書(デジタル録音図書)など高齢者や視覚に障害がある利用者に配慮した資料を収集した。 ・視覚障害等により活字での読書が困難な利用者に対し録音図書等の郵送貸出を行った。 ・対面音訳サービスについては、新型コロナウイルス感染症対策の観点からサービスの提供を中止した。 ・来館することが困難な身体に障害がある利用者に対し自宅配本サービス(毎月2回)を実施した。 ・自宅配本サービス訪問時に、新刊新着案内を配布し、予約サービスの向上を図った。 ・緑図書館において、拡大読書器を設置した。 参考資料 統計「千葉市の図書館2022」(P.52)障害者サービス

	【R2 外部評価より】 障害者サービスの研修会、音訳研修会の実地がなかった。	・聴覚障害者協会の活動や、図書館利用に際してのニーズを知ることにより今後のサービス向上を図るため、障害者サービス研修会を実施した。
37	イ 日本語以外の言語を母語とする市民のニーズを把握し、中央図書館を中心に、外国語資料の収集・提供や地域の中で生活する上で必要な情報の提供に努めます。	・外国語書誌数:R3: 19,374件 ← R2: 19,094件 ・展示コーナーで外国語資料に係る展示を3回実施した。(英語新着図書の紹介など)
	【R2 外部評価より】 日本語以外の言語を母語とする市民のニーズは地域によって差がある、中央館だけでなくその地域のニーズに合わせた資料の収集が地区図書館でも必要である。さらにその提供方法を工夫して積極的に活用できるようにしていただきたい。	・地域において利用が見込まれる外国語辞典を収集し、貸出可として提供した。 花見川図書館…「デイリー日本語・ベトナム語・英語辞典」、「研究社レクシコ新標準スペイン語辞典」、「パスポート初級ベトナム語辞典」貸出可能。「オックスフォード現代英英辞典」禁帯出 花見川団地分館…「パスポート初級仏和辞典」、「パスポート初級スペイン語辞典」貸出可能
38	(4)自動貸出機などによる貸出サービスのセルフ化 ア 利用者の利便性を高めるため、ICTを活用したサービスを提供します。(ICタグ、自動貸出・返却機等の導入等)	・施設の再整備に併せて、ICTを活用したサービス(ICタグ、自動貸出機)の設置を検討する。 (令和4年度は、新花見川図書館に自動貸出機を設置。)
39	(5)情報環境の整備 ア 利用者の利便性を高めるため、電子書籍や有料データベース等のデジタル情報サービスの充実などICTを活用したサービスの提供について引き続き検討します。	・電子書籍サービスを導入した。(R3.7.30～開始)
	【R2 外部評価より】 すべての図書館公民館にWi-Fiが整備されたことは評価する。タブレットの貸し出しや利用者講習などがあれば、利便性が高まるのではないかな。	・タブレットについては、貸し出しする上で当該機器のインターネット接続設定やセキュリティー設定が必要であり、その内容や方法について調整を行っている。
	【R2 外部評価より】 有料データベースは図書館サービスには不可欠である。中央図書館の機能強化のためにもぜひ財源を確保して、導入を目指し、利用者にもその有用性を広く周知するようにしていただきたい。	・新聞有料データベースの機能や費用について、1社から情報収集を行った。現在の新聞(原紙)所蔵状況や利用状況と、新聞データベースを導入した場合の費用対効果を総合的に勘案し、必要により財源確保について検討する。

40	【再掲 主要事業No.2、新規事業No.4】 (6)電子書籍の整備 ア 図書館に来館することなく自宅などで読書が可能となる電子書籍を導入します。 (予算:3,000 [千円])【新規】	・電子書籍サービス開始のため、プロポーザルによる事業者選定のもと体制を構築し、令和3年7月30日からサービスを開始した。選書による資料提供を予算の90点相当から300点に拡充した。 開始時提供資料 約7,600点 年度末時提供資料 8,866点 ・学校にもギガタブによる利用をチラシで啓発した。 ・年度末時点までの利用状況 ログイン総数 41,157回 貸出数 12,518件 予約数 6,904件 ・決算額:3,542[千円] 参考資料 統計「千葉市の図書館2022」 (P.58)電子書籍サービス
41	(7)利便性の高い利用認証システムの調査研究 ア 市民が「知の拠点」で提供するサービスを利用するに当たって必要となる利用認証に関しては、認証技術の高度化を踏まえ、利便性の向上に資する方法などについて調査研究を進めます。	・現状・課題を整理し、利用認証システムについて調査研究をおこなっていく。
42	(8)その他の取組み ア 利用者にとって、見やすく、使いやすい図書館環境を整えるとともに、さまざまな危機事案に適切に対応できる体制を整えます。	【提示】 ・施設内への貼り紙掲示(「雨天時の返却カウンター水濡れ注意」等)をした。 ・利用マナー向上を促すサイン(駐車場使用に関する譲り合い、飲食・携帯通話の禁止など)を刷新して掲示した。 ・館内見回りの強化と、利用者への声掛けをした。 ・掲示物を見やすい物に作りなおした。 【書架】 ・書架の面展示を継続実施した。(書架ごとのおすすめ本等) 本を探しやすいよう、以下の取組を実施した ・書架の本を適正な量に削減した。 ・極度に傷んだ資料の除籍や、利用の少ない資料を閉架に移動するなど、書架に適度な空間が生まれるよう整理した。 ・参考資料室にあった参考図書を文学全集の近くに移動するなど、配架場所の見直しを行った。 ・書棚の最上段及び最下段について、利用者より使いづらいつとの意見を受け、出来るだけ取りやすく見やすい棚へ資料を移動した。今後も地震等による落下の危険性のある最上段の書棚への配架を極力避ける。 ・新書コーナーを新設した。 ・所蔵本の案内を利用者にわかりやすいよう、書架に棚番号を新設するとともに、全体の案内版を大きく見やすいものに変更した。

		【新型コロナウイルス感染症対策】 ・返却図書ウイルス不活性化目安の72時間経過まで保管のち提供とした。 ・カウンター待機列の立ち位置の設置、閲覧席、読書室の席の間引き等を実施した。 ・消毒液の設置、館内の消毒、閲覧席の間仕切りの設置、館内放送による注意喚起等を実施した。 ・講座等の開催にあたっては、消毒液の設置やマイクの消毒のほか、参加者同士の接触を抑制するため、本などの資料を見てもらう際は、回覧せずに前に置いて順番に見てもらふ時間をとったり、席の間引きや予め指定席にしたりするなどの工夫を行った。 【その他の危機事案対策】 ・火災事故発生を想定し、消火班・誘導班等各班に分かれ、実際に消火ホース（水なし）などを使用した防災訓練を行った。 ・火災事故発生を想定し、館内で防災訓練を実施した。 ・法定義務の点検等は、例年どおり実施した。
43	イ 市民の図書館利用を促進するため、積極的な広報活動を行います。	・図書館ホームページに企画展示や市民講座等のイベント情報などを掲載し、資料の紹介や、講座の募集・PR等、積極的な情報発信を図るとともに、館内ポスターの掲示や、チラシを窓口に配置した。また、ポスターやチラシを学校や保育所などの関連施設に配布・設置を依頼してPRを行った。 ・市政だよりや図書館だより、図書館ホームページ、Facebookページ、千葉市ホームページ、12月に新たに開設したTwitter等を活用し、図書館事業に関する情報を発信した。 ・企画展示やイベント情報などを更新し、積極的な情報発信を図った。 ・市民講座の参加者募集のため、近隣幼保施設へのポスター、チラシの配布を実施した。 千葉市図書館ホームページアクセス件数 令和3年度 4,421,009件 参考資料 統計「千葉市の図書館2022」 (P.53)千葉市図書館ホームページアクセス件数の推移 【R2 外部評価より】 図書館ホームページはイベントや講座のお知らせが探しにくく魅力がない、ホームページアクセス数は年々増加しているので広報として改善が望まれる。 【R2 外部評価より】 Facebookの登録者が少なく、Facebook利用でなくても閲覧が可能なように設定を変更したり、更新の頻度を上げるなどの工夫が必要。 ・R5年3月に図書館システムの更新を予定しており、更新に合わせて、利用しやすいホームページになるよう、仕様等の検討を行っている。 ・Facebookについては、全庁的に更新できないという不具合が令和2年度に発生し、令和4年1月によりやく不具合が解消した。その為、Twitterを新たに開設し、図書館事業に関する情報を発信した。

44	ウ よりよい図書館運営を図るため、多くの市民のご意見を伺う機会を設けます。	・図書館ホームページ「お問い合わせメールフォーム」から寄せられた意見や、館内に常設している「意見箱」に寄せられた意見等について、図書館運営の改善に向けた基礎資料とするとともに、回答を希望する利用者への回答を行った。 ・市長への手紙に寄せられた意見に回答し、適切な対応を行った。 ・令和4年1月15日～1月28日に利用者に対し、市図書館（分館含む）及びWEBで千葉市図書館利用アンケート調査を実施した。 ・図書館サービスの満足度は94.9%と、昨年と同様に高水準である。
内部評価	進捗状況 順調	
	主な成果等 (1) 図書の貸出・返却を行うサービスポイントの設置場所・運営方法等、課題を整理し、関係機関と協議していく。 (2) 開館日・開館時間の最適化について、コロナ禍の新たな生活様式への対応も取り入れながら検討する。 (3) インクルーシブ(包括的)な利用環境の整備について、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、対面音訳サービスの提供を中止したが、対応機器(DAISY図書、拡大読書器など)の整備や、自宅配本サービス、外国語資料の収集・提供などの取組みを実施し、障害のある市民や外国籍の市民が利用しやすい環境の充実を図った。また、サービス向上を図るため、障害者サービス研修会を実施した。 (4) 施設の再整備に併せて、ICTを活用したサービス(ICタグ、自動貸出機)の設置を検討する。(令和4年度は、新花見川図書館に自動貸出機を設置。) (6) 情報のデジタル化などの社会変化を踏まえ、紙の図書資料の貸出や返却に加えて、図書館に来館せずに本の貸出や返却が可能となる電子書籍サービスを開始した。 (7) 現状・課題を整理し、利用認証システムについて調査研究をおこなっていく。 (8) ・新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、利用マナー向上を促すための提示や、書架を整理するなど様々な工夫や改善を行い、利用者にとって利用しやすいよう、図書館の環境を整えた。 ・安心して図書館を利用できるよう、防災訓練の実施や、法廷義務の点検を行い、防災体制の強化に努めた。 ・市民の図書館利用を促進するため、「市政だより」や「図書館だより」などの紙ベースで情報発信したほか、新たに開設したTwitterなどを活用し、インターネットを通じた広報活動を積極的に行った。 ・千葉市図書館利用者アンケートにおける、サービスの満足度は94.9%であり、昨年度を1.7ポイント上回った。	

外部評価者のコメント	(1)サービスポイントが増えたことは評価する。昨年の児童相談所の様に移動図書館を図書館が近くにない学校や施設に利用できないか。 (3)外国語の資料について花見川図書館以外の地区館でもニーズの把握と資料の収集を行ってほしい。 (4) ・自動貸出機を導入すれば、利用者の利便性が高まるだけではなく職員の負担も減るのでぜひ実現させて欲しい。 ・自動貸出機の導入は、職員がカウンターで利用者を知る機会が減るのではないか。 (6)電子書籍の導入により、ITCを活用した図書館の利用を進めるうえでも、有料データベース等のデジタル情報サービスのさらなる充実に期待したい。 (8)施設内の張り紙掲示が多すぎて、肝心の掲示が見落とされやすい。図書館ホームページのアクセス数は増加しており、図書館職員が内容を更新できるようにし、最新情報を提供してもらいたい。
------------	---

2 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築

	R3_取組項目	R3_取組結果
取組項目	45 (1)図書館職員の知識経験を活かす効果的な配置と人材の育成 ア 図書館サービスをはじめ、行政分野や地域の課題にも精通し、高度で的確なサービスを提供できる専門職員の確保と育成に努めます。	【千葉市主催の研修】 ・新任図書館職員に対し、業務の基礎学習による知識習得を図るため、初任者研修を実施した。4月15日(木)47人。 ・図書館職員(会計年度任用職員を含む)を対象に、第1回目は図書修理技術の習得を図るため、第2回目は接遇の質を高めるため、全体研修会を実施した。 第1回5月20日(木)18人。第2回11月18日(木)16人。 ・図書館業務に関する知識習得を図るため、外部の研修に参加した。(県立中央図書館主催の地域行政資料研修会など 研修回数24件、受講者数35人) 参考資料 統計「千葉市の図書館2022」(P.76)職員研修の実施
	46 (2)中央図書館の機能強化 ア 司書等の専門分野を特定するとともに、その分野における能力開発を進め、市民等からの高度な情報ニーズに的確・迅速に対応できる人材、知的交流をファシリテートできる人材の養成について引き続き検討します。	・デジタルアーキビストの資格取得支援に向け、関係部局と調整を図った。 (令和4年度から資格取得支援に向け、周知を図っていく。)

47	(3)地区図書館・地区図書館分館の再編 ア 地区図書館・地区図書館分館の再編について施設の再整備に合わせ検討します。	・図書館機能のサービスについて、現状を把握するとともに、課題を整理し、今後の考え方を検討していく。
48	(4)図書資料等の保存・物流機能の一元化 ア 図書資料の物流機能の拡大や施設価値の最大化のため、図書資料の保管機能と物流機能を一元的に担う新たな拠点を整備することについて、図書館利用者や地元住民などの意見を聴取しながら、具現化に向けて引き続き検討します。	・現状を把握するとともに、課題を整理し、今後の考え方を検討していく。
49	【再掲 主要事業No.4・No.5、新規事業No.5】 (5)図書館施設の老朽化への対応 ア 「千葉市公共施設等総合管理計画」が示す基本方針及び資産の総合評価の結果の見直し方針などを踏まえ、利用ニーズの動向や地域に必要な「知の拠点」としての機能などを整理した上で、学校等との複合化や施設規模のコンパクト化、拠点性のある商業施設への移転の可能性などについて検討を行い、適切に対応します。	・花見川図書館の大規模改修について、リニューアルに向けてワークショップを実施。また、利用者及び地元住民に対して、スケジュール、施設配置等の説明会をR4.3.21に実施した。(こてはし台公民館との複合化) ・「千城台地区学校跡施設利活用検討委員会」からの回答書及び意見要望への市の対応をR4.2.19開催の「千城台地区学校跡施設の活用方針」説明会で説明した。(若葉図書館の整備) ・空調設備等改修工事等に伴い、R3.10.5 から、閲覧スペースや諸室などの利用を制限し、その対応として館内に臨時の窓口を設置し、インターネット・電話・窓口で予約された図書資料の貸出や返却等を行った。R4.3.26に、検査を含めた工事の終了時期に目途が立ったことから、利用制限を解除した。(稲毛図書館の空調設備改修工事)
50	【再掲 主要事業No.4、新規事業No.5】 イ 花見川図書館を改修すると同時に、同じく老朽化しているこてはし台公民館の機能を図書館の2階に再配置し、複合施設として地域の拠点性を高め、利用者の利便性向上及び複合化の相乗効果による効率的な施設運営を図るため、令和5年度リニューアルオープンに向けて実施設計を行います。 (予算:20,000 [千円])【新規】	・花見川図書館、こてはし台公民館の複合化について、実施設計を行い、施設配置等を決定した。なお、図書館、公民館ともに、利用団体からの要望、R3.5.22開催の「新しい花見川図書館を考えるワークショップ」でのご意見をフロアの配置に反映した。 (令和4年度は大規模工事ですが、こてはし台公民館に臨時窓口を設置し、インターネット・電話・窓口で予約された資料の貸出や返却を行い、図書館サービスを極力低下させないよう努めていく。)

51	ウ 千城台地区学校跡施設利活用検討委員会より提出された回答書及び意見要望書への対応について、全庁的に検討を進めていきます。(若葉図書館の整備)	・回答書及び意見要望への市の対応をR4.2.19開催の「千城台地区学校跡施設の活用方針」説明会で説明した。 (令和4年度は、ワークショップやアンケートを実施し、利用者や地域の意見を聴取するとともに、基本計画を策定する。)
52	(6)民間機能の活用 ア サービスポイントとして再整備した施設の運営については、庁内関係部署や関係機関との協議を行った上で、民間機能を活用した運営について慎重に検討します。	・民間機能の活用を進めるにあたっては、関係部局や関係機関と協議を行った上で、慎重に検討していく。
53	(7)運営資金を確保する新たな手法の検討 ア 運営資金の確保に努めるため、引き続き予算対応を行うとともに、寄付金受入や募金箱の設置及び雑誌カバーを活用した新たな広告事業等による広告料、地元企業などからの支援やクラウドファンディングなど、新たな手法について引き続き検討します。	・図書資料費(R4予算)の確保については、厳しい財政状況下において可能な限りの予算確保に努めた。 *予算額:94,616千円(前年比5,476千円増) ・図書資料の整備に充てるため寄附金の受入や募金箱を設置し、資料費の確保に努めた。 *寄附金収入(R3決算見込):431,540円(前年比 5,044,128円減) ・広告料収入を確保するため、民間事業者による、ホームページバナー広告のほか、雑誌カバー等への広告を実施した。 *広告料及び目的外使用料(R3決算見込):994千円(前年比 49千円増)
54	(8)関係機関との連携 ア 市民の持つ様々な技術、知識、経験をボランティアとして、図書館サービスに資することで、豊かな体験ができる活動の場を増やします。	・移動図書館のステーションマスター(有償ボランティア)による図書館サービスの提供を実施した。(音訳協力者(有償ボランティア)については、新型コロナウイルス感染症対策の観点から対面音訳サービスが実施できなかった。)
55	イ 図書館相互間、地域の生涯学習施設、公的機関、各種団体などとの協力を推進します。	・市内未所蔵資料について、県内他市図書館から相互貸借により取り寄せ、利用者に提供した。 ・利用者の希望資料が、県内他市図書館に所蔵がない場合は、国立国会図書館や県外図書館に所蔵確認し、資料を提供できるよう努めた。 ・千葉市図書館情報ネットワーク協議会事業等により、千葉市内の図書館施設との連携を図った。 ・千葉市図書館情報ネットワーク協議会HPに加盟館のイベント情報などを掲載するなど、加盟館の情報発信に努めた。

	56 (9)施設名称の検討 ア 市民と「知の拠点」との距離感を縮め、また、「知」の創出への参加意識を醸成するため、すべての市民の「知の拠点」に相応しい名称や愛称などについて検討します。	・施設名称等については、施設の再整備に併せて、公共施設名称設定指針に基づき、検討していく。
	57 (10)その他の取組み ア 図書館運営に多様な市民の意見を反映させるため、図書館協議会に、公募による委員を引き続き登用します。	・令和2年度に委員の改選を行い、令和3年度は引き続き2人の公募委員を含めた10人の委員を委嘱した。
内部評価	進捗状況 遅れ	
	主な成果等 (1)よりよい図書館サービスを提供するため、図書館職員の専門性を高める研修の実施や、県立中央図書館などが主催する外部の研修に参加した。 (2)デジタルアーキビストの資格取得支援に向け、関係部局と調整を図った。(令和4年度から資格取得支援に向け、周知を図っていく。) (3)図書館機能のサービスについて、現状を把握するとともに、課題を整理し、今後の考え方を検討していく。 (4)現状を把握するとともに、課題を整理し、今後の考え方を検討していく。 (5) ・花見川図書館・こてはし台公民館の複合化について、ワークショップや説明会を実施し、実施設計を行い、施設配置等を決定した。(令和4年度は大規模工事ですが、こてはし台公民館に臨時窓口を設置し、インターネット・電話・窓口で予約された資料の貸出や返却を行い、図書館サービスを極力低下させないよう努めていく。) ・若葉図書館の整備については、千城台地区学校跡施設利活用検討委員会からの回答書及び意見要望への市の対応を説明会において説明した。(令和4年度は、ワークショップやアンケートを実施し、利用者や地域の意見を聴取するとともに、基本計画を策定する。) (6)民間機能の活用を進めるにあたっては、関係部局や関係機関と協議を行った上で、慎重に検討していく。 (7)図書資料費については、厳しい財政状況の中、可能な限りの予算確保及び、寄付金受入などの外部資金を確保し、予算獲得のための取組みを行った。 (8) ・移動図書館において、ステーションマスター(有償ボランティア)の協力を得て図書館サービスを提供した。 ・本市図書館が所蔵していない資料は、図書館間の相互貸借等により、市民が必要とする資料を提供できるように努めた。 ・千葉市図書館情報ネットワーク協議会により、地域の図書館が館種を超えて連携・協力をし、図書館サービスの向上を図った。 (9)施設名称等については、施設の再整備に併せて、公共施設名称設定指針に基づき、検討していく。	

・限られた予算で図書館を運営するにあたって、分館で行っている業務を中央図書館で集約出来ないか等、業務を見直し効率的に業務を行ってほしい。

・地区図書館、地区図書館分館、移動図書館の利用状況を精査したうえで市内の適切な場所に図書館を配置して欲しい。

(1)(2)デジタルアーキビストの資格支援も必要だが、アーカイブ以外にも図書館業務には経験とスキルを持った職員が欠かせない。まずは図書館業務の専門職員として司書の有資格者を配置し、希望者には司書資格の取得支援も行い、人材を育てることが急務である。アーカイブ化には行政分野や地域の課題にも精通した司書が地域資料・地域情報を収集することが必要となる。

(3)(4)千葉市図書館の再編については、『ビジョン2040』には具体的な構想がなく、あいまいでわかりにくい。市の図書館全体をどういう体制にしていくのか、具体的に提示してほしい。地区館や分館については、その住民を良く把握すること。住民との対話でその運営を進める事。教育委員会が主導して行うこと。庁内会議での決定後の説明ではなく、図書館が計画段階で市民に情報を公開し、地元住民だけでなく図書館利用者に広く意見を聞く機会を設けてほしい。また、図書館協議会に諮問し議論していただきたい。物流やコロナなど『2040』が作られた時から状況が変わっており、熟慮してほしい。

(5)花見川図書館とこてはし台公民館の複合化、若葉図書館と千城台公民館の複合化によって、地区図書館としての機能が果たされなくなることが危惧される。複合化により図書館面積・蔵書が縮減される中、職員数が縮減されたり、運営が指定管理などにならないよう直営で運営することを強く望む。また、商業施設への移転については、商業施設には小学生だけで行くことは事件に巻き込まれるなどの危険もあり、学校でも禁止されていると聞く。ワークショップやアンケートで意見を聴取する試みは1回限りではなく計画段階に合わせて数回行い、意見などをホームページなどで公表する。

(6)「民間機能の活用」とは「民間委託」の導入であり、図書館にはなじまない。地元住民や図書館利用者の意見を尊重し、慎重に判断していただきたい。図書館協議会において協議すべきである。

(7)図書館資料費の確保は、図書館の有用性を庁内や議員に示し理解してもらうことが必要。庁内に図書館の資料を利用してもらい、政策に役立たせ、資料費の確保につなげていただきたい。

(9)施設名称は政令指定都市に移行した際に6つの区の名前が公募と選定会議を経て決定したものである。いずれも公募1位の名前であり、市民の意向が反映された愛着のある名前です。その名前を変更する必要があるか再考していただきたい。

(10)図書館複合化に関して協議会に諮問し事前に意見聴取を。

No.	評価指標	達成目標	R3年度実績	R2年度実績	R元年度実績
図書館サービスの基本的な取組事項	新規登録者数 (公民館図書室での登録者を含む)	対前年度比増	18,555人	13,452人	18,977人
	来館者数 (館内での閲覧利用も含め、図書館に来館した利用者の延べ人数)	対前年度比増	197万人	162.7万人	250.5万人
	年間貸出利用者率 (1年間に、図書館を利用した市民の割合)	対前年度比増	市民の 9.8%	市民の 9.0%	市民の 11.4%
	年間受入図書資料数 (公民館図書室での受入を含む)	現状維持	47,255冊 (うち購入28,074冊 寄贈19,024冊 その他157冊)	49,429冊 (うち購入32,175冊 寄贈17,102冊 その他152冊)	56,431冊 (うち購入35,379冊 寄贈20,878冊 その他174冊)
	図書資料費 (上段:当初予算額、下段:決算額)	現状維持	89,137千円 (うち電子書籍3,000千円)	88,621千円	92,214千円
			74,458千円 (うち電子書籍3,541千円)	76,336千円	82,012千円
	市民一人当たり貸出数 及び総貸出数 (公民館図書室での貸出を含む)	対前年度比増	一人当たり 4.1冊 総貸出数 400万冊	一人当たり 3.51冊 総貸出数 345万冊	一人当たり 4.41冊 総貸出数 432万冊
	WEB予約件数	対前年度比増	101.4万件	93.2万件	102.0万件
	図書館ホームページアクセス件数	対前年度比増	4,421,009件	3,597,182件	2,410,879件
電子書籍	ログイン数	—	41,157回 (R3.7.30～)	—	—
	提供コンテンツ数	—	8,866点	—	—
	貸出点数	—	12,518点	—	—
	予約点数	—	6,904点	—	—
3	地域行政資料の収集冊数 (公民館図書室での収集冊数を含む)	現状維持	3,454冊	3,795冊	3,509冊
11	レファレンス受付件数	対前年度比増	74,149件	67,292件	90,113件
12	一般向き図書館講座の開催回数及び参加者数	対前年度比増	14回 224人	13回 192人	25回 843人
18	児童(小学生)一人当たりの児童用図書の貸出冊数	対前年度比増	32.21冊	25.58冊	31.58冊
19	おはなし会等の開催回数及び参加者数	対前年度比増	602回 3,826人	241回 1,805人	772回 9,585人
24	学校等関連施設と連携事業を行った回数 (図書館見学、おはなし会、調べ学習、職場体験、学校での 利用案内等の連携事業を行った回数)	対前年度比増	145回	151回	449回
	団体貸出による児童図書の提供数	対前年度比増	15,707冊	24,183冊	20,909冊
28	地域おはなしボランティア活動実施回数及び派遣人数	対前年度比増	12回 49人	5回 20人	89回 271人

No.	評価指標	達成目標	R3年度実績	R2年度実績	R元年度実績
30	連携事業等実施数 (学校以外の機関(保育所・幼稚園等)との連携により実施した、市民を対象とした事業の数)	対前年度比増	19件	9件	236件
36	図書館利用に障害のある方への情報提供	対前年度比増	対面音訳件数 0件 貸出冊数 7,560点	対面音訳件数 0件 貸出冊数 7,154点	対面音訳件数 14件 貸出冊数 7,414点
44	千葉市図書館利用アンケート調査(利用者満足度調査)における満足度	現状維持	満足 58.6% やや満足 36.3% 計94.9%	満足 54.5% やや満足 38.7% 計93.2%	満足 53.8% やや満足 41.1% 計94.9%
45	職員を対象とした図書館業務に関する研修の実施・参加回数及び受講者数	現状維持	33回 延べ 261人	26回 延べ 146人	65回 延べ 414人
46	司書資格を有する職員の割合	対前年度比増	55.9% 正規職員 23.5% 会計年度任用職員 100%	54.2% 正規職員 21.6% 会計年度任用職員 98.7%	51.9% 正規職員 20.8% 会計年度任用職員 94.8%
55	図書館間相互貸借資料数	対前年度比増	借受 8,533冊 貸出 7,984冊	借受 6,536冊 貸出 6,888冊	借受 7,476冊 貸出 9,378冊

【主な成果等】

総合的には、一定の業務水準を確保することができたと考える。

- ・まちづくりに貢献した市民等の本市発展の記憶を、民間事業者を活用して千葉市地域無形民俗文化財(4件)の関係者等、10件の取材インタビューを行い、「千葉市オーラルヒストリー」として収集・保存を行った。
- ・アーカイブ化する資料の収集方針や年次目標件数・実施体制などを含めた、アーカイブ化計画の策定に向けて、令和3年度は、計画に盛り込むべき項目(骨子)について検討を始めた。引き続き、策定に向けて具体的な準備を進めていく。
- ・千葉市制100周年を記念して発行された刊行物等をはじめとした地域・行政資料や、地域情報の千葉市関連資料を収集及び保存した。また、市制100周年を記念し、各図書館で企画展示を実施するとともに、団体貸出メニューに「100周年記念セット」を準備し、周知した。
- ・「千葉市オーラルヒストリー」(インタビュー記事)や、「千葉市史(第2巻)」をデジタル化し、図書館ホームページに掲載した。
- ・図書館ホームページについて、利用しやすいホームページになるよう、図書館システムの更新(令和5年3月予定)に併せて、仕様等の検討をおこなっていく。
- ・Facebookページに加え、新たに令和3年12月にはTwitterページを開設し、利用案内やイベント情報を、中央・各地区館分館から発信することにより、より幅広い層への情報発信を図った。
- ・Wi-Fi環境を活用したミーティングルーム等の整備については施設の改修等に併せて取り組んでいく。
- ・多様化するレファレンスに対応するため、各関係機関の実施する研修に参加し、担当職員のスキルアップを図った。レファレンス資料(参考資料)の充実や、窓口のほか電話やメールでのレファレンスにも対応し、レファレンスサービスの充実に努めた。レファレンスPRとして、館内においては調べ方の道案内(レファレンス)コーナーの設置、案内提示やリーフレットを配布した。また、ホームページにレファレンス事例などに関する記事を掲載することにより周知を図った。
- ・様々な講座や企画展示を実施し、読書活動の普及啓発に努めた。講座の実施にあたっては、講座に関連するテーマの企画展示を実施し、関連資料の貸出をするなどの情報提供を行い、図書館の利用促進につなげる工夫を行った。
- ・講座や企画展示、おはなし会など関係機関と連携した多くの取組みを実施した。
- ・市政だよりなどの広報紙に掲載するとともに、インターネットを通じた広報を実施し、図書館の利用を促進した。
- ・こどもの読書活動を推進するため、同計画に基づき、事業を推進した。
- ・各種研修に参加し、児童サービス担当者のスキルアップを図った。
- ・こどもの発達段階に応じた読書活動が行われるよう、発達段階ごとの望ましい選書を行った。
- ・おはなし会、学校等関連施設との連携事業(図書館見学など)、おはなしボランティアの活動派遣などは、感染症対策を行い、可能な限り実施した。
- ・「どくしょてちょう」や「ファミリーブックタイム事例集」等の配布に加え、第4次計画の新規事業として令和3年度より新たに、小学校の新入学児童に「利用申込書」の配布及び市内小中特別支援学校に「学校レファレンスカード」の配布を開始し、図書館の利用促進、家庭での読書活動促進を図った。
- ・「学校レファレンスカード」について、令和3年度の利用状況やアンケート調査の結果をふまえ、改善案を検討し利用促進を図っていく。
- ・収集した「千葉市民の知」を学校授業で活用する際の支援について検討していく。
- ・図書の貸出・返却を行うサービスポイントの設置場所・運営方法等、課題を整理し、関係機関と協議していく。
- ・開館日・開館時間の最適化について、コロナ禍の新たな生活様式への対応も取り入れながら検討する。
- ・インクルーシブ(包括的)な利用環境の整備について、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、対面音訳サービスの提供を中止したが、対応機器(DAISY図書、拡大読書器など)の整備や、自宅配本サービス、外国語資料の収集・提供などの取組みを実施し、障害のある市民や外国籍の市民が利用しやすい環境の充実に努めた。また、サービス向上を図るため、障害者サービス研修会を実施した。
- ・施設の再整備に併せて、ICTを活用したサービス(ICタグ、自動貸出機)の設置を検討する。(令和4年度は、新花見川図書館に自動貸出機を設置。)
- ・情報のデジタル化などの社会変化を踏まえ、紙の図書資料の貸出や返却に加えて、図書館に来館せずに本の貸出や返却が可能となる電子書籍サービスを開始した。
- ・現状・課題を整理し、利用認証システムについて調査研究をおこなっていく。
- ・新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、利用マナー向上を促すための提示や、書架を整理するなど様々な工夫や改善を行い、利用者にとって利用しやすいよう、図書館の環境を整えた。
- ・安心して図書館を利用できるよう、防災訓練の実施や、法廷義務の点検を行い、防災体制の強化に努めた。
- ・市民の図書館利用を促進するため、「市政だより」や「図書館だより」などの紙ベースで情報発信したほか、新たに開設したTwitterなどを活用し、インターネットを通じた広報活動を積極的に行った。
- ・千葉市図書館利用者アンケートにおける、サービスの満足度は94.9%であり、昨年度を1.7ポイント上回った。

- ・よりよい図書館サービスを提供するため、図書館職員の専門性を高める研修の実施や、県立中央図書館などが主催する外部の研修に参加した。
- ・デジタルアーキビストの資格取得支援に向け、関係部局と調整を図った。
(令和4年度から資格取得支援に向け、周知を図っていく。)
- ・図書館機能のサービスについて、現状を把握するとともに、課題を整理し、今後の考え方を検討していく。
- ・花見川図書館・こてはし台公民館の複合化について、ワークショップや説明会を実施し、実施設計を行い、施設配置等を決定した。
(令和4年度は大規模工事ですが、こてはし台公民館に臨時窓口を設置し、インターネット・電話・窓口で予約された資料の貸出や返却を行い、図書館サービスを極力低下させないよう努めていく。)
- ・若葉図書館の整備については、千城台地区学校跡施設活用検討委員会からの回答書及び意見要望への市の対応を説明会において説明した。
(令和4年度は、ワークショップやアンケートを実施し、利用者や地域の意見を聴取するとともに、基本計画を策定する。)
- ・民間機能の活用を進めるにあたっては、関係部局や関係機関と協議を行った上で、慎重に検討していく。
- ・図書資料費については、厳しい財政状況の中、可能な限りの予算確保及び、寄付金受入などの外部資金を確保し、予算獲得のための取組みを行った。
- ・移動図書館において、ステーションマスター(有償ボランティア)の協力を得て図書館サービスを提供した。
- ・本市図書館が所蔵していない資料は、図書館間の相互貸借等により、市民が必要とする資料を提供できるように努めた。
- ・千葉市図書館情報ネットワーク協議会により、地域の図書館が館種を超えて連携・協力をし、図書館サービスの向上を図った。
- ・施設名称等については、施設の再整備に併せて、公共施設名称設定指針に基づき、検討していく。

【方針】

以上のことから、引き続き限られた予算の中で、最大限の図書館サービスの提供を目指し、一つ一つの課題を解決していくために次のような取組みを実施する。

- ・「知」の拠点として、豊かな市民生活や本市の発展に貢献できるよう、将来の図書館の在り方や施策展開の方向性を示した「千葉市図書館ビジョン2040」を推進する。
- ・こどもたちがあらゆる機会に、あらゆる場所において自主的に読書活動ができるよう、「千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)」を推進する。
- ・資料の充実を図るため、引き続き資料費予算の確保に努める。

外部評価

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策を取りながらも取り組んだ結果、前年度と比較し、新規登録者数、来館者数、貸出利用者数等すべての項目で増加傾向とはなっている点は評価するが、コロナ禍前の水準と比べても利用拡充するよう引き続き、図書館サービス向上に向けてPDCAサイクルを機能させて、評価・点検し、図書館サービスの向上に努めていただきたい。また年間受入冊数ならびに図書資料費(決算)が前年度より減少しているため少なくとも現状維持で推移するよう努めていただきたい。
- ・千葉市オーラルヒストリーをデジタルアーカイブ上で公開する取り組みは、千葉市内の市井の方々の歴史を後世に残すという役割を果たしており素晴らしい。また、写真をうまく取り入れて見やすいレイアウトになっている所も評価するものの、学校における授業で活用することを考え、小学生にも分かりやすくルビを振るなど工夫していただきたい。
なお、アーカイブ化はこれから必要なサービスと考えられることから、デジタル資料の収集の考え方を整理することが望ましい。またデジタル化を進めるにあたり、知識や技能など専門知識を有する人材の養成について、市独自で行うことは難しいので他機関で行っている講習会を積極的に活用し、取り組んでいただきたい。
- ・学校や学校図書館と連携した事業の取り組みは、相互の強みを生かし、弱みを補うことができる点から、評価出来る。引き続き、市教育委員会の図書館主任研修会等へ図書館職員が出席することで、学校図書館と市立図書館が連携し、今まで図書館を利用しなかった児童生徒が図書館に足を運ぶきっかけとなるよう、各学校へ更なる周知を図っていただきたい。また、学校だけでなく市内の他機関についても積極的に連携に努めていただきたい。
- ・学校レファレンスカードは良い取り組みであるものの学校に周知が足らず、利用が少ないことから改善が望まれる。利用冊数の見直しや地区図書館等で受け取りができるようにするなど、学校の声を聞きながら、より利用につながるサービスとなることを期待する。
また、団体貸し出しについても、改善を図りながら利用の促進を図っていただきたい。
- ・Twitterは情報の即時性、拡散性に優れた広報ツールであり、図書館の情報発信手段として効果が期待できる。現在フォロワー数が少ないことから、周知を工夫し、フォロワー数の増加に努めていただきたい。また、図書館利用者のうちインターネットやSNSを利用していない層に対しては、従来通り、広報誌やポスターなどでの広報も継続し、幅広い層に情報を届けることが出来るよう努めていただきたい。
- ・来館しなくても図書資料を借りることができる電子書籍サービスの導入について、今まで利用しなかった利用者を拡大したことは評価する。ICTを活用したデジタル情報サービスの更なる充実を図るため、有料データベース等の導入についても検討されたい。
- ・図書館を運営するにあたって、地区図書館、地区図書館分館、移動図書館等の利用状況を精査した上で、市の図書館サービス拠点について検討を行っていただきたい。
また、再整備にあたり、利用者や地域住民に対し、情報の公開と、意見を聴取する機会を設けていただきたい。